

自由国民新聞

JIYU-KOKUMIN SHINBUN

2022 (令和4)年
2月20日
第8号

発行所：自由国民連合
〒103-0014
東京都中央区日本橋蛸船町
2-15-9-901
TEL：03-6661-2525
FAX：03-6661-7829

定価 1部500円

尊皇愛国・反共救国・保守団結・国際連帯——自由国民連合



「神武天皇復活式」の意義を語る阿部正寿総裁

万世一系の皇統は人類の至宝

1912年に中華民国の大統領になった袁世凱が、清朝の皇帝を退位させ、秦の始皇帝から約2100年続いた帝制を廃した。

1917年のロシア革命でも、ロマノフ皇帝一家はもとより約1億人が粛清され、帝制に幕を閉じた。最近では、最古の国とされる紀元前900年から続いているエチオピアでは、1974年の軍事クーデターで、ハレイ・セラシエ1世が廃位、翌年に暗殺され、王制は断絶した。

このように、世界の王族には、権力を恣に振るい、民衆から憎まれ、葬られたかを窺える話が多い。

その中で、日本の皇統が続いているのは稀有な例で、天皇が国民を「大御宝」（おおみたから）として慈しみ、大御心（おおみこころ）による信頼関係がある故であった。

そういう意味で、天皇の存在を認めない日本共産党が革命に成功しない限り、皇室存続への心配はない。しかし、GHQ（連合国軍総司令部）の占領下で行われた日本弱体化政策によって、令和を迎えた今日、今上天皇陛下、秋篠宮皇嗣殿下、悠仁親王殿下と皇位は継承されるが、その後の皇位の安定継承が大きな国家的な課題となっている。

「建国の詔」の精神で日本の復興を

「神武天皇復活式」を挙行

自由国民連合

初代天皇の神武天皇の即位日を記念する建国記念の日の11日、肇国の精神の復興を祈念する式典「神武天皇復活式」が都内で自由国民連合（自国連、阿部正寿総裁）主催で挙行された。同式典は、神武天皇の肇国を讃えるとともに、即位2年前に渙発された「建国の詔」の理念を思い起こし、肇国の原点に立ち返って理想の国を目指す「令和維新」が再出発する契機となった。



都内で行われた「神武天皇復活式」=2月11日

式典では、開会宣言、国歌斉唱に続いて、にっぽん文明研究所代表で神主の奈良泰秀氏による齋主で神事が奉納された。神事では、齋主による祝詞奏上のあと、参加者全員で大祝詞を奉唱した。

松原章氏による能楽「高砂」が奉納されたあと、阿部総裁が講話で、「神武天皇復活式」の意義を次のように述べた

「古事記や日本書紀で日本の初代天皇とされる神武天皇の即位日は、紀元節として、明治天皇によって明治6年（1873年）に制定されたが、戦後、昭和23年（1948年）に占領軍（GHQ）によって廃止された。昭和42年（1967年）2月11日に「建国記念の日」として施行されたが、今日、その意味を理解する人が少なくなっている。これが日本が勢いを失っていく最大の原因と考える。日本を復興するには、失われた肇国の精神、『建国の詔』の精神を取り戻し、その精神の基に日本が一つになるしか解決の方法はない」

「このために、尊皇愛国、保守団結、反共救国、国際連帯を合言葉に自国連を創設した。この精神

を取り戻せば、日本は変わっていく。建国の中心者、神武天皇の精神がそこにあるからだ。日本を世界の重要な国にするために、肇国の精神を心に明記して前進してほしい。神武天皇に心から感謝したい」

※神武天皇の御即位

神武天皇の名前は、奈良時代に付けられた漢風諡号（一般的な呼び名）で、日本書紀では神日本磐余彦天皇（かむやまといわれひこのすめらみこと）と記されている。本名は彦火火出見（ひこほほでみ）。神武天皇が橿原宮で天皇に即位するのは、建国の詔が発せられた2年後の元旦「旧暦の辛酉（かのとり）の年春正月（1月1日）」（紀元前660年）で新暦の2月11日に当たるということで同日が建国記念の日とされた。戦前戦中は紀元節と呼ばれて祭日となっていた。神武天皇の御即位の年が天皇紀元の元年。今年、皇紀2682年である。



出席者ら

1789年のフランス革命で、マリイ・アントワネットなど王族の他、約200万人が処刑され、王制は廃止された。中国では、

建国の詔 「八紘一宇」の人生観、世界観

神武天皇の建国の理想、精神は、「建国の詔」に示されている。天皇は詔の最後の部分で次のように述べている。

「これから天地東西南北のために都を築造する。その都を四方八方を覆う大きな屋根に見立てて、みんながその屋根の下で暮らす家族のように助け合って生きていく国を築いていこう。畝傍山（うねびやま）の東南にある橿原（かしはら）の地で国を覆い、民衆を『たから』とする国を築いていこう」

日本全国がひとつの屋根の下で暮らす家族のように、お互い助け合って生きていこうではないか、これが日本の建国の原点に置かれた。これを「八紘一宇」という。八紘は、四方八方のこと、一宇は一つの屋根の下で暮らす家族のこと。戦後、GHQによって使用禁

止とされたが、災害の多発する日本列島において、国民が互いに助け合って生き残っていくのに必要な原点となる思想である。

「民衆を『たから』とする国」とあるが、原文では「可治之」の3語で示している。「これを治らしむべし」と読む。「治らし」とは、日本の統治の根幹にある言葉で、民衆をこそ国の宝としていこうという意味である。国の宝にするのは天皇で、政治権力者は天皇の臣下として天皇の「たから」に尽くすことを責務としたのである。民衆は、心の中にある天、神、良心に従って正しく生きる限りにおいて権力からの自由が与えられている。我が国は天皇のもとで世界最古の民主主義を実現した国であり、その思想は、「天民主義」に通じるものである。

辺野古移設工事が加速へ

名護市長に渡具知氏再選

任期満了に伴う名護市長選が1月23日に行われ、自民、公明推薦の2期目を目指す現職、渡具知武豊氏が、玉城アニー知事を支援する「オール沖縄」陣営から立候補した前市議の岸本洋平氏に約5000票の予想以上の大差をつけて再選を果たした。自由国民連合は、告示前約10日間、名護市を拠点に「オール沖縄・共産党」のチラシを運動賛同者と兵に配布したほか、街宣活動で、渡具知候補を応援した。(沖縄支部)

「オール沖縄・共産党」のチラシ まさきで応援した自由国民連合

同市辺野古地区では米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の代替施設の建設に必要な埋め立て工事が進んでおり、玉城知事やオール沖縄の強引な反対を訴えたが、市民は、基地問題よりも生活重視を選じた。「自国連のチラシの効果があつた」(渡具知事務所)の結果は間違いない。有権者約5万人、投票率は前回を8ポイント下回る

68・32%と過去最低だった。渡具知氏の選挙事務所にあるモニターに姿を見せた茂木敏充自民党幹事長は、夜10時すぎ、渡具知氏の当確が出て、万歳三唱をした後、「国の立場からも全力で(名護振興を)バックアップしたい」と力強く述べた。

「新基地建設反対」を争点に目論んだ「オール沖縄」陣営は、昨年の総選挙に続いて、敗北した。市長選の結果は市民の民意として建設に向けて弾みとなる道筋がついた。

同日投票が行われた南城市長選でも、自公が推薦する前市長の古謝景春氏が当選。現職相手に終始、苦戦が伝えられていただけに、オール沖縄から市政を取り戻したインパクトは大きい。さらに、この日に行われる予定だった八重瀬町長選は自公系の新垣安弘町長が

無投票で再選を決めている。これを含めれば、選挙イヤーの序盤戦は自民の3戦3勝という形だ。沖縄の「選挙イヤー」の初戦と位置付けられた今回の重要選挙は自公に軍配が上がり、秋の知事選に向けて弾みをつけた。

今回の選挙戦で最大の争点となつたのは基地問題ではなく、子育て・福祉など市民サービスの向上だった。

子育て無償化には年間7億円の予算が必要になる。渡具知氏は選挙戦で、「自身が実現した」無償化3点セット(保育料、中学までの給食費、高校卒業までの医療費)は財源の大きさから、どの市町村でもできなかった事業。だと胸を張った。辺野古移設の見返りとして国から与えられる米軍再編交付金を活用したからこその実績だが、これが市民に受け入れられた。

一方の岸本氏は、基地建設反対を訴える一方で、交付金に頼らず、市有地売却や行政の無駄を省くことで無償3点セットの財源を確保すると主張したが、「財源の根拠がコロナ変わる」(渡具知氏)との批判に反論できなかった。

名護市と南城市を取ったことで、自民党県連の中川京貴会長は「今後の市長選、参院選、知事選に向けて追い風になる」と力強く語った。一方で、「参院選、県知事選となると、簡単にはいかない」と、ある自民党県連幹部は気持ちを引き締めた。

次の選挙は2月27日に投票される石垣市長選と4月の沖縄市長選だ。石垣では4選を目指す保守系の中山義隆市長と中山市長を1期目から支えてきたものの、オール沖縄と手を組んだ旧保守系市議との一騎打ちとなっているが、来年の自衛隊配備を控える重要な選挙である。

自民は夏の参院選(沖縄選挙区)と秋の県知事選ともにオール沖縄の現職に挑むことになる。しかし、2月下旬現在、参院選と県知事選の立候補予定者がまだ正式に決まっていない。

自国連本部と沖縄支部の今後の沖縄対策が期待される。



当確を受け万歳三唱する渡具知武豊氏(前列左から2人目) =1月23日、沖縄県名護市の選対本部

「新基地建設反対」を争点に目論んだ「オール沖縄」陣営は、昨年の総選挙に続いて、敗北した。市長選の結果は市民の民意として建設に向けて弾みとなる道筋がついた。

同日投票が行われた南城市長選でも、自公が推薦する前市長の古謝景春氏が当選。現職相手に終始、苦戦が伝えられていただけに、オール沖縄から市政を取り戻したインパクトは大きい。さらに、この日に行われる予定だった八重瀬町長選は自公系の新垣安弘町長が

無投票で再選を決めている。これを含めれば、選挙イヤーの序盤戦は自民の3戦3勝という形だ。沖縄の「選挙イヤー」の初戦と位置付けられた今回の重要選挙は自公に軍配が上がり、秋の知事選に向けて弾みをつけた。

今回の選挙戦で最大の争点となつたのは基地問題ではなく、子育て・福祉など市民サービスの向上だった。

子育て無償化には年間7億円の予算が必要になる。渡具知氏は選挙戦で、「自身が実現した」無償化3点セット(保育料、中学までの給食費、高校卒業までの医療費)は財源の大きさから、どの市町村でもできなかった事業。だと胸を張った。辺野古移設の見返りとして国から与えられる米軍再編交付金を活用したからこその実績だが、これが市民に受け入れられた。

一方の岸本氏は、基地建設反対を訴える一方で、交付金に頼らず、市有地売却や行政の無駄を省くことで無償3点セットの財源を確保すると主張したが、「財源の根拠がコロナ変わる」(渡具知氏)との批判に反論できなかった。

名護市と南城市を取ったことで、自民党県連の中川京貴会長は「今後の市長選、参院選、知事選に向けて追い風になる」と力強く語った。一方で、「参院選、県知事選となると、簡単にはいかない」と、ある自民党県連幹部は気持ちを引き締めた。

次の選挙は2月27日に投票される石垣市長選と4月の沖縄市長選だ。石垣では4選を目指す保守系の中山義隆市長と中山市長を1期目から支えてきたものの、オール沖縄と手を組んだ旧保守系市議との一騎打ちとなっているが、来年の自衛隊配備を控える重要な選挙である。

自民は夏の参院選(沖縄選挙区)と秋の県知事選ともにオール沖縄の現職に挑むことになる。しかし、2月下旬現在、参院選と県知事選の立候補予定者がまだ正式に決まっていない。

自国連本部と沖縄支部の今後の沖縄対策が期待される。

「北京五輪は平和の祭典に非ず」

中国領事館に北京五輪抗議文投函

福岡支部

福岡市の保守系団体「人権弾圧国家 中華人民共和国 中国共産党政権を許さない会」の有志が、北京冬季オリンピック開幕した2月4日、同市にある中国福岡総領事館前に集結し、北京オリンピック開催に対して抗議活動した。

この日同領事館は閉鎖していたほか、県警の厳重な規制のため、団体一行は正門前ではなく敷地の端の路上に集結、自由国民連合福岡支部の伊藤大地支部長が、団体を代表して抗議文を読み上げ、領事館に投函した。

同団体有志は抗議文の中で、「人権弾圧・民族浄化・言語文化や宗教文化破壊、そしておぞましい臓器収奪を続けている中国共産党政権にオリンピック開催資格などありません」とした上で「どれだけ多くの民族が中国共産党に苦しめられているのか、どれだけの人達が家族を奪われ家族が破壊され言語や文化を奪われ苦しみの中に在るのか。私たちは深い怒りと哀しみをもちて中国共産党政権を糾弾します」と訴えた。

さらに、抗議文は、「我々は自由

殉国七士廟を参拝 三ヶ根山



殉国七士廟

2月12日、愛知県西尾市の三ヶ根山にある、極東軍事裁判の判決に従い死刑を執行された7人の軍人、政治家を祀っている殉国七士廟参拝に自由国民連合会員として今回初めて参加しました。同廟参拝を企画しているのは「三ヶ根の会」で、2015年から始めて今回が15回目。

この日、三ヶ根を一望できる三ヶ根山は快晴にめぐまれ風もなく、春の到来を感じさせる穏やかな一日でしたが、当日の参加者は比較的少規模の参拝でした。

参加者全員が厳粛な気持ちで廟の前で参拝、祖国日本のために戦争で尊い命を捧げられた英霊の方々に哀悼の意を捧げました。主催者の一人、坂下和美さんは、「参拝に来てもらえれば、日本人としての自覚と誇りを持つことができる場であり、何故に東の靖國、西の三ヶ根と呼ばれるのが分かってもらえると思っております」と語り、参拝参加を呼び掛けた。

初めの参拝でしたが、廟は民間施設にも関わらず整備されていて、こんなところがあつたのかとの驚きと感動の一日でした。

同会の参拝は年3〜4回行われており、今回は5月3日(火)の憲法記念日の予定。同廟には、軍人として東条英機、土肥原賢三、板垣征四郎、木村兵太郎、松井石根、武藤章、文官として広田弘毅7人が祀られている。(竹村祥)

伊藤支部長は「日本政府の中国への弱腰が、このような規制をもたらし、今後もこのような規制に屈することなく、出来る限りの可能な手段で抗議活動を繰り返すよう」と決意した」と語り、自国連の「尊皇愛國」「反共救國」「保守団結」運動の意義を強調した。

自国連の存在意義を理解 女性局

女性局

自由国民連合の女性局(小澤正枝局長、「桜の会」)は昨年10月から毎月2回、自国連発行のブックレット「民主主義を魂を込める」をテキストとして、自国連事務局の水間石溪次長らを講師に招いて勉強会を行っている。首都圏、中部圏、九州ブロックから代表がリモートで参加、自国連の理念と存在意義の理解を深めている。

小澤局長は、「最初は天民主義などなかなか理解困難なことがあつたが、勉強会の回を重ねるにつれて、自国連の掲げる、『尊皇愛國』『反共救國』『保守団結』『国際連帯』

の4つのスローガンの意味合いが理解できるようになってきた」と語る。

1月でブックレットの勉強内容を終えて2月からは、古事記を参考にして、日本の国の成り立ち、万世一系の天皇の存在の価値、国際社会の中の日本の価値などを勉強していく予定である。

「自国連を人に紹介するときに、勉強会で学んだことがとても参考になりました」「女性天皇と女系天皇の違いがよく分かった」などという会員の声が上がっている。



中国福岡総領事館前で行われた北京オリンピック開催への抗議活動